

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 第54回 石井敏夫コレクションより

戸田忠恕公の禰が建つ本丸跡。
また、土塁が残る



宇都宮城址

二十二代続いた宇都宮氏の改易以降、城主は頻繁に交代した。秀吉の命により入部した二十三代浅野長政を皮切りに、蒲生秀行、奥平忠昌、本多正純、松平忠弘、阿部正邦、そして、最後の城主となった四十七代戸田忠友まで延べ二十四人を数える。江戸時代になってからは、幕府の重臣をつとめた譜代大名が代々入部。宇都宮城は東北諸藩に対する北の守り、そして將軍家日光社参の宿泊場所として重要な役割を担った。

徳川家康を祀る東照宮への日

光社参は、二代將軍秀忠の時代から十二代將軍家慶の時代まで、代参を含めると十九回行われた。その規模は十万人以上の行列をともしなう壮大なものであったという。

往路は江戸城を出発し、岩槻城、古河城、宇都宮城にそれぞれ宿泊し、四日目に日光着。宇都宮城では將軍を迎えるにあたって、社参のために御成御殿や御座所を建設。家臣の屋敷も供奉者の宿舎に割り当てられたというから、街中が大騒ぎであったのに違いない。

江戸中期以降、比較的長きにわたって宇都宮を支配したのが戸田氏である。戸田氏は、織田信長の時代から家康に仕えた三河(現愛知県)の豪族。一六〇一(慶長六)年、三州田原一万石の城主に取り立てられた後、五代將軍綱吉の時代から京都所司代や老中職をつとめるなど幕政に参画した。

宇都宮との関わりは、一七二〇(宝永七)年八月、越後国高田より三十六代城主として戸田忠真が六万七千石で入部したのが最初である。以後、廃藩置県まで延べ百三十三年



草が生い茂る本丸の礎と土塁

間九代にわたり居城。度重なる大雨や冷害、大火事に見舞われながらも、新田開発や商工業の発展につとめた。

戊辰戦争の際は官軍につき幕軍と激突。土方歳三らの攻撃に遭い落城焼失した。一八六八(慶応四)年四月十九日のことであった。



戸田家の墓所がある英巖寺跡(花房町)